

小さな親切く母の声かけ

富士宮市立北山小学校 六年

石川 安梨

「こんにちは。自分でお片付けしてえらいね。」

病院のキッズルームにいた小さな女の子とお母さんに、私の母は声をかけました。私の母は、子どもと接するのが好きで、出かけた先で、小さな子どもがいると、すぐに声をかけます。私は、人見知りだということもあり、

（声をかけられた人は、めいわくじゃないのかな。お母さんも、よく声をかけられるなあ。）

と心配してしまいます。また、声をかけられた子どもやお母さんに対し、少しやきもちをやいてしまうこともあります。でも、子どもに接している時の母は、笑顔でキラキラと輝いていて、とても楽しそうです。

そんな母を見ると、私もなんだか笑顔で、あったかい気持ちになってきます。私は母に、

「どうしたら、そんなに周りの人に声をかけたり、やさしくしてあげることができのの。」

と聞いてみました。すると母は、

「お母さんたちだって、家事でいそがしかったり、お世話で大変だったりするでしょう。子どもだってほめられるとうれしいの。あなたもそうだった。声かけをしてもらえることで、安心して子どもを連れていくことができるのよ。」

と教えてくれました。そして、

「相手のことを思えば、はずかしがらずに、声をかけることだってできるのよ。」

とアドバイスをしてくれました。この言葉で私は、

（人見知りなんか言ってもらえない。こまっていたり、少しつかれていたりする人がいたら、助けてあげることが大切なんだ。）

と感じました。

母は、家でも一人の母親として、小さい時から私を育ててくれ、家事も毎日済ませ、学校行事にも必ず参加してくれました。これらの事は、私をふくめ、すべて家族のためにやってくれていることでした。周りの人や相手のことを思い、やさしく助けることを心がけて生活していることを、私は改めて知り、大切なことだと感じました。一つの声かけから、母の生き方、そして私の生き方まで考えさせられました。そして、小さな手伝いや声かけを進んでやっていこうと思いました。

私はこれから、滋賀県の近江八幡市で行われる交歓会に北山小代表として行ってきます。仲間のことを真っ先に考え、声をかけてあげることが大切にし、楽しくすごしたいです。そして、身近な生活の中でも、声をかけてあげたいです。

今日も私は、小さな子やお母さんに声をかけてあげているでしょう。

「こんにちは。がんばって歩いていてえらいね。」

と。

## あしのけががたすけてもらったこと

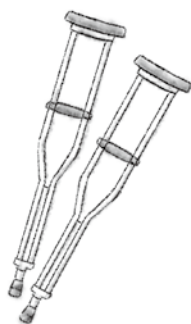
富士市立富士南小学校 一年

影山 泉

わたしは、四がつ二九にち、どうろでじ  
てんしゃにのつていて、あしのけがをしま  
した。おとうさんが、きんじょのひとをよ  
ぶと、すぐにたすけにきてくれました。た  
おるで、ちをふいてくれました。こうこう  
せいのおにいさんも、たすけてくれました。  
きゅうきゅうしゃで、きゅうきゅうい  
りようせんたーにいきました。けがをした  
ところにますいをして、きずぐちをぬって  
もらいました。いたくて、おおごえでない  
ていると、かんごしさんが、  
「もうちょっとだよ。がんばって。」  
と、いつてくれました。おいしゃさんも、  
ずっとはげましてくれました。  
いえにかえてねていると、おじちゃん  
と、おばちゃんと、おばあちゃんがきまし  
た。わたしに、えほんや、びでおをもつて  
きてくれました。

ちゅうおうびょういんで、おかあさんが、  
わたしをおんぶしていたら、ぼらんていあ  
のおばさんが、くるまいすをもってきてく  
れました。りはびりせんたーでは、やさし  
いおにいさんが、まつぶづえのつかいかた  
を、おしえてくれました。しゃかいふくし  
きょうぎかいでは、こどもよのばんだの  
くるまいすを、かしてくれました。  
こうしてわたしは、五がつ七かから、がっ  
こうへいけるようになりました。  
がっこうでは、はるみせんせいとあきら  
せんせいが、むかえてくれました。ほかの  
くらすのせんせいがたも、わたしのくつを  
しまつてくれたり、トイレにつれていつた  
りしてくれました。かいだんをのぼるとき  
は、だっこしてくれました。ともだちが、  
にもつをしまつたり、きゅうしよくのよう  
いをやつてくれました。さつまいもも、う  
えてくれました。やすみじかんには、六ね  
んせいのおねえさんたちが、くるまいすを  
おして、あそんでくれました。  
六がつ二かのうんどうかいでは、とみた  
せんせいが、ずっとそばについてくれまし

た。わたしも、くるまいすで、たまいいや  
だんすにでられてよかったです。  
なつやすみになって、わたしのあしは、  
すっかりよくなりました。はしつたりお  
どつたり、すきなところすぐにいけます。  
わたしがあけるけなかつたとき、たくさん  
のひとたちから、しんせつにしてもらいま  
した。でも、はずかしくて、すぐにありが  
とうをいうことができませんでした。せん  
せいに、ありがとうのてがみをかきました  
が、わたすことができませんでした。あり  
がとうとごめんさいをつたえたいです。  
いま、このさくぶんをかいてよかつたで  
す。かかとのきずあとはのこつていますが、  
あのとき、しんせつにしてくれた、たくさ  
んのひとたちのことを、ずっとわすれない  
ようにしたいです。



入選

## 止まってあげたい

浜松市立有玉小学校 三年

菊池 藍衣利

わたしがお姉ちゃんと自転車でじゅくへ行くとき、前から自転車が来ました。この道はすぐ車が通っていて、歩道はとてもせまくて、だんもあつて、少しこわいです。わたしたちは高校生のお兄さんに止まってあげました。するとお兄さんは、自転車のベルを、通りすぎるまですと「チリンチリンチリンチリン。」と何回も何回も鳴らしてくれました。わたしは、「ありがとうございます。」という意味だと思って、うれしい気持ちになりました。ベルで「ありがとう。」と返してくれたので、止まってよかったなと思いました。わたしは、これからも止まってあげたいなと思いました。じゅくの帰りに、また前から自転車が来ました。すると今度は、前から来た高校生のお兄さんが、先に止まってくれました。わたしたちは礼をして、

「ありがとうございます。」

と言いました。お兄さんは、え顔でうなずいてくれました。すぐうれしかったです。中には、ふつうに通りすぎる人もいるのに、止まってくれたので、お兄さんのことをとても親切だと思いました。自転車でスピードを出していると止まりにくいのに、それでも止まってくれたので、本当にありがたいと思えました。わたしは、止まってもらっても、止まってあげても、すぐうれしいことに気がつきました。

わたしが歩いてわたるとき、止まってくれる車があります。わたしは礼をして、

「ありがとうございます。」

とお礼を言って走ってわたります。車の方の信号が青でも、止まってくれることがあります。青なのに止まってくれて、もうしわけのないなと思って、わたしはお礼を言って走ってわたります。

今は夏だからすごく暑いです。あせもたくさんかきます。だから、歩いている人に止まってあげたいな思いました。冬だったらさむいから、早くわたれるように止

まってあげたいな思いました。わたしは、

自分が止まってあげることが、こんなにうれしい気持ちになるなんて思っていませんでした。「ありがとう」と言ってもらえたり、合図をしてもらおうと、もっとうれしい気持ちになります。だからわたしも、お礼の言葉をこれからも言っていきたいと思えます。自転車でも、大人になって車を運転しているときでも、お先にどうぞという温かい気持ちで、止まってあげたいです。

## 言葉にこめられた思い

浜松市立有玉小学校 六年

菊池 優利菜

小学校最後の運動会、私達六年生は組体操をしました。練習では一度も間違えたことがなかったのに、最後の運動会だからと きん張っていたのか、力が入っていたのか分らないのですが、なぜか当日に限って、間違えてしまいました。私の動きが一つ先になってしまっていたのです。しかしその

時、私は自分が間違えているなんて、全く気が付いていませんでした。すると後ろの友達が、

「ゆり、こうだよ。」

と、こそこそと教えてくれました。

(えーうそー、やっちゃったあー。)

すぐはすかしくて、残念で残念で泣きたいくらい悔しかったです。失敗してしまった自分に、とても腹が立ちました。でも、友達が早く教えてくれたおかげで、一回の動きのずれですみました。

しかし、私は残念な気持ちで頭がいっぱいで、これからまた間違えないかと不安でいっぱい、心臓がドキドキしたままでした。場所を移動して、丁度担任の先生の前になった時、先生が二回うなづいてくださいました。何だか、「大丈夫だよ、気にしないでがんばれ。」と言ってくださったように思えて、少しほっとして、そして最後までがんばろうと前向きな気持ちになることができました。

無事に運動会が終わると、私は真っ先に友達のところに行き、何度も何度もお礼を

言いました。友達は、

「全然大丈夫だよ。」

と言ってくれました。私は、一人だけ間違えてしまったことが本当にはずかしくて、気になって仕方がなかったので、

「私、間違えちゃったよ。」

と、二人の友達に話しました。すると友達は、

「そんなの気にしなくていいよ。失敗はだれにだってあるから。それにみんなに分らないよ。」

と言ってくれました。その言葉がとても嬉しくて心が温かくなりました。

(こんなことを言ってくれるなんて、優しい友達だなあ、いい友達にめぐまれているなあ。)

と思いました。

帰宅後、母に、

「お母さん、間違えちゃった。」

と言うと、急に涙が出てきました。母は私を抱きしめて、

「大丈夫だよ。気にしない気にしない。最後まで泣かずにがんばってえらかった

と思うよ。友達が教えてくれて良かったね。ありがたいね。」

と言ってくれました。母にそう言われて本当に嬉しかったし、胸がすっきりしました。

今回、私は悔しい思いをしたけれど、友達の温かさや言葉の大切さを、改めて感じることができました。思いやりのある言葉は、人を喜ばせ、励まし、感動を与え、大きな支えになります。しかし、思いやりのない言葉は、人を傷つけ、悲しませ、何の力にもなりません。だからこそ、人を思いやる温かい言葉を常に使える人になりたいと思います。



## ぼくの「ありがとう」

浜松市立上島小学校 四年

坂口 智彦

夏休みにお母さんと学校に向かう時、通学路の大きな通りの信号に『この先工事中、回り道をして下さい』と書かれた看板がありました。ぼくは、

(大丈夫かな。)

と怖く思ってお母さんに聞いてみたら、「大丈夫、工事中の所は歩行者用の通り道があるから。」

と手をつないでくれました。

横断歩道を渡って少し歩くと、工事現場が見えました。機械を使って大きな音がします。大きなトラックも動いています。すぐ横の通りには、車がたくさん走っています。お母さんは、

「どうする。」

とぼくに聞いてきました。この時、お母さんは、(機械の音が大きいので、聴覚過敏があるぼくは怖いだろう、どうしよう。)

と思っていたそうです。

工事現場に着くと、矢印が書かれた看板がありました。おじさんが、こちらにどうぞと手で合図し、ゆうどうしてくれました。機械の音も止めてくれました。そして、トラックのゆうどうをしていたおばさんが、止まるように運転手さんに伝え、無事に工事現場を通ることが出来ました。ぼくは、工事現場のおじさんやおばさんに感謝したい気持ちでいっぱいになりました。お母さんもそう思ったそうです。ぼくは、工事現場のおじさんおばさんたちに、

「ありがとうございました。」

と頭をぺこりと下げました。おじさんおばさんたちも頭をぺこりと下げ、ニコニコわらってくれました。

今回、工事のおじさんおばさんたちがしてくれたことを見て、ぼくも周りを見て、どうしたらよいかに気付いて行動出来る人になりたいと思いました。そして、工事現場を通った時の気持ちをお母さんと話し合った事で、お母さんがぼくをすごく心配してくれていた事が分かりました。とって

もうれしかったので、これからも感じた事を話し合っていきたいです。そして、みんなに「ありがとう」の気持ちをわすれずにいたいです。

## さーいごのーページ

浜松市立双葉小学校 二年

高木 風雅

ぼくには、たく山のやさしさをくれるおじいちゃんがありました。

そんなおじいちゃんは、三年前くらいから少し元気がなくなってきた、入院するこ  
とになりました。

入院したばかりのころは、まだ色いろ出  
きる日が多くて、絵がとても上手でとく  
なおじいちゃんは、ぼくがかいてほしいと  
思ったキャラクターの絵や、カブト虫のた  
たかう絵など、たく山のすてきな絵をぼく  
にプレゼントしてくれました。その絵は、  
ぼくにとって大じなたからものです。そし  
て、今でもおじいちゃんがかいた、たく山

のがかみたいたいな絵を思い出します。

でも、入院してから二年くらいたつと、絵をかく時の力もなくなってきたてしまいましたが、そして、会いにいったもねてばかりいるさみしい日が多くなりました。そんな日が一年くらいつづきました。

そして、ついにやさしかったおじいちゃん、今年の七月になくなってしまいました。

おそうしきの日に、しゃんよのよこには、スケッチブックや色えんぴつがかざってありました。そのスケッチブックにかいてある絵が見たくて、ぼくはずっとながめていました。そこには、おじいちゃんからぼくへの、さいごのプレゼントがありました。

なんと、さいごのページには、ぼくのわらった「顔」の絵がかいてありました。ぼくは、思わずなみだが出てとまりませんでした。そして、おじいちゃんのかいたさいごのページは、ぼくにとつてさいごの思い出のページになりました。

ぼくは、ぜったいに、すてきなしゃん切がたく山プレゼントできるおじいちゃんみた

いな人になりたいと思っています。

### 言葉の力

長泉町立長泉小学校 五年

永田 るり

わたしには、友達の小さな一言のおかげで、心が軽くなったことがあります。

わたしは去年スイミングを習っていましたが、練習がわたしにとっては大変で、いやになりながら泳いでいた時に、となりのコースで泳いでいた友達が、「がんばれ。」と、一言おうえんしてくれました。

たった一言で短かったけれども、わたしは心の中にあつた重い物がすつと取れて、いつもよりも早く課題を終わらせることができました。

わたしは練習が終わった後に友達にお礼を言いましたが、その友達は、

「あんな一言どうってことないよ。」  
と言われてしまい、わたしは心の中で、

(どうしたらさらつと言えるのだろうか？  
すごいなあ。)

と、思いました。

家に帰った後、自分が、小さいけれどもうれしくなるような言葉が言えているかどうか考えてみました。

すると、わたしはうれしくなるような言葉を友達にあまり言っておらず、ぎゃくにうれしくなるような言葉を言ってもらっているばかりでした。

しかし、四年生の時まではここまでしか考えられませんでした。五年生になったばかりのころに、わたしはふと、スイミングの時に「おうえんしてくれ」の出来事を思い出しました。

そしてわたしは、(ついに五年生になって、来年は六年生。学校のリーダーにもなるのだから、自分もあの時の友達のように、小さいけれども、うれしくなるような言葉をたくさん使おう。)と決意して、新しいクラスで自分のつくえが分からなくてこまっている子に、

「大じょうぶ？」



と声をかけました。するとその子からは、「ありがとう。大じょうぶだよ。」との返事がありました。

わたしは「ありがとう」の言葉を聞いて、とてもうれしくなりました。

四年生の時に先生から、

「ありがとうなどの『ふわふわ言葉』を言  
うと、言った人も言われた人もうれし  
くなります。」

と教えられていました。色々と思い返すと、その理由がやっと分かった気がしました。

スイミングの時間におうえんしてくれた友達の中では、軽く声をかけることはふつうだったとしても、声をかけてもらった側はその一言でうれしくなったり、心が軽くなったりします。そしてわたしは、声をかけることで友達とのつながりも深くなったように感じました。

これからわたしも、「小さいけれどもうれしくなるような言葉」をたくさん見つけ、またその言葉をたくさん使っていきたいです。

あったかい人いっぱい鷹匠一丁目

静岡市立伝馬町小学校 四年

中司 杏実

「よってきたね。待ってたよ。」

今年も鷹匠一丁目の楽しい夏祭りが始まりました。会を開いてくれるのは、町内の方々です。

私の住んでいる所は、新静岡駅のすぐ近く、鷹匠一丁目です。おしゃれな町、まちなどまん中とみんなに言われますが、町内会の行事に参加すると、ほとんどがお年寄りという地域です。若い人があまり住んでいないのです。子供会は私たち姉妹しかないので活動していません。

そんな鷹匠一丁目ですが、とてもすきなふれあいがあります。みんな、私たち姉妹をとてかわいがってくれます。近所のみんなが見守り隊なのです。近所のおじいさんおばあさん、お店を開いている若いご夫婦、大学生のお兄ちゃん。みんな明るいあいさつをしてくれます。

毎年、運動会ではお年寄りしかいないので、その息子さんやむすめさんが数人参加してくれます。しかし、他の地区は若いお父さんやお母さんがいるので、つな引きもムカデきょう争もあつという間に負けてしまします。

きょう技に負けつづける中、小学生の徒きょう走になると、町内のみんなが、私のためだけにすごい応援をしてくれます。私は足が速くないので、みんなに応えんしてもらおうのはちょっとはずかしいけれど、毎年とてもほこらしい気持ちになるので、す。

そして、私が入院した時には、  
「最近、杏実ちゃんを見なくなっただけど、  
どうしたの？」

と声をかけてくれたり、退院した時には、  
「がんばったね。おかえり。」  
と、みんなが言ってくれました。近くの美容院におつとめしているお姉さんが、「あみちゃんがんばれ！」と手作りの置き物とすてきな絵をくれて、それをかざって入院生活をがんばりました。

今は、家を建てかえるため、他の地区に住んでいます、

「屋根ができたねえ。子供部屋ができるなんていいねえ。」

と、みんな私の家ができるのを楽しみにしてくれてうれしいです。

鷹匠一丁目には、町みんなの笑顔があふれています。そんな町内のみなさんとのふれあいについて作った標語をコンクールに出したところ、賞をいただいたこともあります。今日も、私のお気に入りのむらさきのランドセル、妹のエメラルド色のランドセルを見守ってくれている鷹匠一丁目のみなさん。そんなすてきな町を私はずっと大切にしていきたいです。

そして、私はずっと鷹匠に住んで、お父さんお母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、近所の人たちと仲よく生活していきます。

だって、鷹匠一丁目、大好きだから。

### 小さな親切は世界を変える

学校法人星美学園静岡サレジオ小学校 五年

古川 知恵帆

「なぜ小さな親切をした方がいいのかな。」「小さな親切をして何が変わるのだろうか。」私は考えてみました。

まず、通学中に乗る電車。電車の中でできることはないか。それは、席をゆずることです。ですが、お年寄りの方は一度ずわると立つのが大変な方もいます。なのでお年寄りの方が「大丈夫だよ。」などと言っているのに、無理に「どうぞ、どうぞ。」と言っているのは、親切とはまた変わってしまうことがあります。だから親切とは、人の気持ちを思って、私にできることをすることだと思います。

私の親せきに首から下が動かなくて、とても不自由な生活をしている人がいます。てるみちゃんといえます。お父さんのいことです。お盆に親せきのうちに行って会ってきました。何も一人でできません。汗

もふけないので全部やってもらっています。てるみちゃんは、電動車をあごでそうさして、一人で買い物に出かけるそうです。お店でほしい物があると、買い物をしているお客さんに、

「あその商品とってください。」

とお願いをしてカゴに入れてもらうそうです。レジでは、レジの人におさいふをわたして、そこからお金を出してもらうそうです。途中で車イスがこわれたり困ったことがあると、歩いている人に声をかけて、けいたいをかりて、家に電話をしてもらうそうです。でも、声をかける人を選ぶそうです。いそがしそうかな？やさしそうかな？びっくりしないかな？と考えるそうです。親切をしてもらう人も、お願いする人をお願いやお願しているそうです。

二つのことを考えてみると、お年寄りや体の不自由な人とか、何かしてあげる方も、してもらう方も関係なく、まわりの人やみんなの気持ちを考えて私にできることをしたら、みんなが幸せになると思います。私がまわりの人を思いやって、私もまわり



の人もうれしくなる。私のまわりの人一人一人が、そのまわりの人も思いやって行動をする。一人一人は少ない人数に対してでも、まわりの人を思いやれば、みんなが仲良くなります。けんかをする人が減ります。それが世界に広まると、戦争がなくなつて平和になります。

私は子供なので、大人よりやれることは少ないかもしれませんが、でも、私は私にできる小さなことから、思いやりをもった親切をしていきたいと思います。

## ハチドリ的心

富士市立富士第一小学校 六年

望月 瑠七

小さなハチドリの物語があります。山火事で他の大きな動物達が我先にと逃げ出す中、ハチドリは小さなくちばしで水てきを運び、火を消そうとします。たった一羽で、がんばるハチドリに、「そんな事をして何になるの？」

と動物達はみんな笑いますが、ハチドリは、「私は、私に出来る事をしているだけ。」と言うのです。

この話は、私が小学校に入学した時に校長先生が朝礼で話してくれました。小さな親切は、このハチドリの様です。ハチドリが運ぶほんの小さなひとしずくでも、たくさん集まれば大きな力になると思います。どんなに小さな親切でも校長先生はほめてくれました。そして、一人一人の生徒のためにきれいな折り紙でつるを折り、ハチドリ賞を用意してくれました。私は初め、きれいなつるがかざられたハチドリ賞がほしいために、誰かに親切にしたり、自分が人のためにがんばれる事を見つけるのに必死でした。いくつかのハチドリ賞をもらい、うれしい気持ちでいっぱいなのに気付いた事があります。がんばっている生徒のために、いそがしい時間の合間にせつせつとつるを折っている校長先生の姿を想像しました。小さな事でも一生懸命に行う一人一人にハチドリ賞をあげたい、と言った校長先生の想いがつるに折りこまれているので

す。手にのせてもふわっと軽い折りづるに、校長先生のとても大きな想いがつまっているのを感じました。改めて、ハチドリ賞をいただける事はどれだけかけがえのない事なのかを知った瞬間でもありました。校長先生が小学校を退職されてからも、私の心の中には、いつもハチドリの想いが在り続けています。校長先生が、生徒におくったハチドリ賞の数は、ハチドリが運んだ水てきの数のようにも思います。生徒の一人一人が小さな事でも善い行いに気付けるようにと、水てきの代わりに一羽一羽つるを折った校長先生はハチドリのようなです。

ハチドリの物語は、

「私は、私に出来る事をしているだけ。」のセリフで終わっています。この後、他の動物達がどのような行動をとったのか、山火事がどうなったのかは人それぞれの想像の他ありません。

この物語にとつての災難は山火事でしたが、現実では戦争、貧困、地球温暖化、またはもっと別の物だったりすると思います。問題が大きすぎて、私に出来る事は何

もないと、行動にうつさない人はたくさんいますが、それはまちがっている事をハチドリは教えています。たとえ、小さな力でも同じ想いの人がたくさん集まっていれば大きな力になるのです。

六年生になった今も、校長先生に教わったハチドリの心を忘れずに、自分出来る小さな事を見つけてがんばります。私が誰かのために出来る小さな行動がまわりに広がり、いつか大きな力になる様に願います。

## リベンジ

袋井市立浅羽北小学校 六年

矢後 成海

小学校一年生の時、私はお母さんと浜松に出かける際、電車に乗った。電車はすいていて、私達もすわることができた。しかし、しだいに混んできて席も全部うまってしまった。そこに、おばあさんが乗ってきました。おばあさんは少し電車をうろついでから、私の前に立った。そのとたん私の胸

がドクンとなった。小学校一年生の私でも席をゆずった方がいいのは分かっていた。だけど、「席、代わりますか」その一言が言えなかった。結局、おばあさんは、すぐにおりてしまった。その後、浜松駅で私達もおりた。そして、お母さんと二人で買い物をした。久しぶりの二人きりでの買い物……だけど、心の中がずっとモヤモヤしていた。それから、電車に乗ることは何度かあったが、その度に一年生の時を思い出して気が気ではなかった。

そんな私も、もう六年生。春……あの時と同じようにお母さんと二人で浜松に電車で出かけた。電車に乗ると少し鼓動が早くなった。最初、電車はすいていて私達もすわることができたが、しだいに混んできて席は全部うまってしまった。いやな予感がした。予感は当たった。おばあさんが乗ってきたのだ。案の定、おばあさんは私の前に立った。鼓動はもっと速くなり、まだ肌寒いというのに手が汗ばんだ。そのとたん、一年生の時のことを鮮明に思い出した。（もう、同じことで後かいなんてしたくない。）

い。）

そう思った。

「席……代わりますか？」

私は立ち上がりながら言った。すると、

「おや、ありがとうねえ。」

とおばあさんは、ほほえみながら言う、うれしそうに席にすわった。おばあさんのうれしそうな顔を見たら、こっちまでうれしくなった。一年生の時できなかったことが、六年生になったらできるようになったことも、とてもうれしかった。

この作文を書いている時、山口県で行方不明になった二才児のよしきくんを見つけたという、おばたさんという人が話題になっていた。おばたさんは、ボランティア中心の生活をしているようだ。そのおばたさんは、「けっして『してやる』という気持ちではなく、『させていただく』という気持ちでやっている。」と言っていた。私は、『してやる』という気持ちで席をゆずったのではなかったが、少なからず『させていただく』という気持ちでゆずってはいなかった。大人でも『させていただく』とい

う気持ちでやるのは、難しいらしいけど、今度、電車で席をゆずる時は、『させていたたく』という気持ちでゆずり、今の私にリベンジしたい。

おりてよかった

御前崎市立浜岡北小学校 六年

渡邊 真那

『人間には一つの命がある。動物にも一つの命がある。』すべてのものが一つしかない命を持っている。長生きする人、短い年で命を失ってしまう人。人それぞれがう。今から紹介するのは、ちょっととした親切のつもりが、命を助けることにつながった、私が実際に体験した話です。

学校の帰り、私たちはいつものように、友達と楽しく帰っていました。

「今日遊ぼう。」

「いいよ。何して遊ぶ。」

と、私たちは話していました。ちょっと歩いていくと、私は、少し深い水路が目に入

りました。よく見ると、黒いものが動いていました。

「ねえ、何かあそこにいない。」

と私は友達に言いました。近づいてみると小さくてともかわいいう犬が水路に落ちてびちよびちよでした。とてもかわいいうで、助けてあげたかったけれど、水路が意外に深くて、友達と、

「どうする。」

「助けてあげようよ。かわいいうじゃない。」

と、ずっと話していました。

（一つしかない命を見守ることはできない。）

い。)

と、思って、私たちは、勇気を出して助けることにしました。カバンをおろして、水路の所におりました。その犬はすごく弱っていて体がふるえていました。無事、犬は助かりました。でもその犬は、とても寒そうにっていました。上着をかけてあげようと思っただけ、その時は真冬で、私たちもすごく寒かったです。ちょうど度その時、知っている人のお母さんが通りかかりました。その人に今まであったことを全て話しまし

た。すると、その人が毛布を持ってきてくれることになりました。その後、犬の体のふるえはおさまり落ちつきました。その時、毛布を持ってきてくれたお母さんが飼い主を知っているそうで、その人に電話し、場所を伝えました。少したつと、飼い主がきて、

「良かった。もう見つからないと思ったよ。」

と言って犬をだきました。するとその人は、

「この子は、目が見えないしう害なんだよ。」

と言いました。私たちはびっくりしました。

その人は、私たちに、

「ありがとう。」

と言って帰っていきました。私たちは、

「あのワンちゃん助かって良かったね。」

と、喜びました。それから数日後、あの時の飼い主さんがきてお礼を持ってきてくれました。小さな命が助かって本当に良かったなと思いました。

私は、とてもすばらしい体験が出来たと思っっています。ちょっととした親切のつもり

が、命を助けることにつながったと思うと、  
今でも実感がわいてきます。あの時、水路  
におりようか迷ったけど、おりて本当によ  
かった。



入選